

# くるゆり通信



第210号 令和4年6月発行  
 発行者 国土交通省中部地方整備局  
 天竜川上流河川事務所  
 小渋川砂防出張所  
 小渋川支部安全協議会

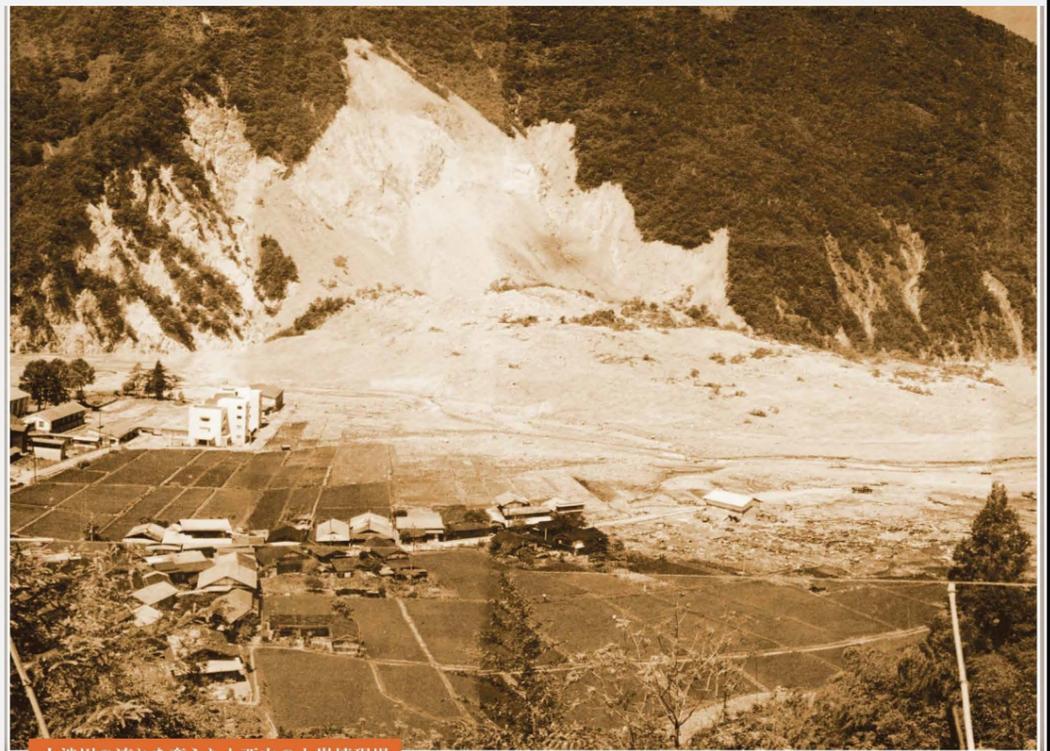
## 昭和36年梅雨前線豪雨災害（通称「三六災害」）

昭和36(1961)年6月23日から降り始めた雨は、梅雨前線の停滞、台風6号の接近とともにその激しさを増し、7月1日までに飯田(測候所)で観測した総雨量は579mmに達し、特に6月27日の1日の降水量は325mmを記録する大雨となりました。この大雨による上伊那郡、下伊那郡における被害は甚大で、死者・行方不明者130名におよびました。天竜川の支川では各所で土石流が発生し、家屋を破壊するとともに、天竜川本川に多量の土砂を流出し、狭窄部上流において土砂堆積を起して氾濫・堤防決壊の要因となりました。

小渋川中流部の大鹿村大河原地区では大西山が大崩壊を起こし、約350万立方メートル(名古屋ドーム球場約2杯分)の崩壊土砂が集落を襲い、死者行方不明者42名を出したほか、小渋川支川四徳川の中川村四徳地区では発生した土石流により地区の全家屋が倒壊し、全戸移転を余儀なくされる大惨事となりました。

(出典:中部の砂防少史)

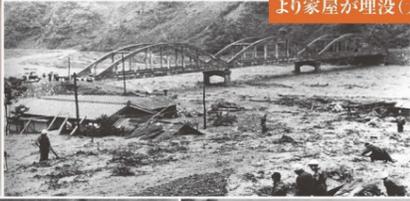
今から61年前にあった災害です。この災害からの復興にご尽力された皆様に敬意を表しますとともに、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。当時の災害体験を記憶に留める方々は少なくなってきました。災害に立ち向かった先人の経験を後世に伝承することが、災害を経験していない方々にとっての災害への備えとなります。



小渋川の流れを変えた大西山の大崩壊現場(大鹿村) 中日新聞社提供



小渋橋下流で多量の土砂により家屋が埋没(大鹿村)



高森町山吹の被災状況



三峰川から流出した土砂に埋った家屋と水田(伊那市)

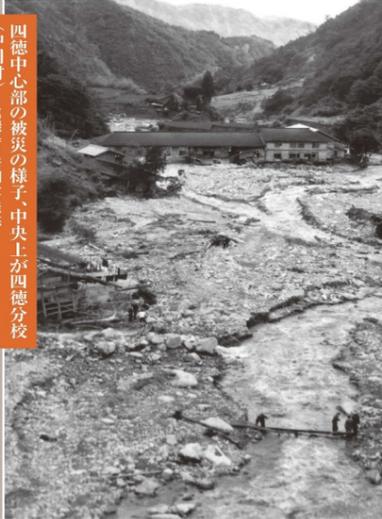
天候も回復した6月29日午前8時30分頃、大西山で、小規模な崩壊が発生しました。これが大西山の大崩壊の始まりでした。

9時10分頃、大きな轟音とともに崩落した石や土砂が大河原中心部を襲いました。高さ450mから落下した厚さ15m、幅500mの岩塊は屏風が倒れるように崩れ落ち、大量の石や土砂は、小渋川の堤防よりもはるかに高い山津波となって対岸の家屋に押し寄せました。

大西山が崩壊し、土煙が上った瞬間(大鹿村)「岩の明氏撮影」



四徳中心部の被災の様子、中央上が四徳分校(中川村) 信濃毎日新聞社提供



土砂に埋もれた天龍社市田工場(高森町)



三六災害60年実行委員会 **S36.6** 三六災害

## 土砂災害から身を守るために知っていただきたいこと

土砂災害から身を守るために、台風や大雨の際には、**土砂災害に注意してください**

土砂災害は、予測が難しい災害ですが、土砂災害から身を守るために国民の皆様を知っていただきたい3つのことについてお知らせします。

台風が来る前に  
雨が降る前に

雨が降り始めたら

豪雨になる前に

①お住まいの場所が、土砂災害危険箇所か確認する。

土砂災害の約6割は、「土砂災害危険箇所」で発生します。普段からお住まいの場所が土砂災害危険箇所にあるかどうか確認しましょう。お住まいの市町村役場に問い合わせてください。※ただし、土砂災害は、土砂災害危険箇所以外でも発生します。

②土砂災害危険警戒情報や雨量観測所の情報に注意する。

大雨による土砂災害発生危険度が高まったときには「土砂災害警戒情報」が発表されます。雨が降り出したら雨雲の動きと土砂災害警戒情報に注意しましょう。土砂災害警戒情報は、気象庁ホームページ、国土交通省砂防部ホームページ、各都道府県の砂防課などのホームページで確認できます。都道府県によっては、携帯電話等に自動的に土砂災害警戒情報を連絡するサービスもありますのでご利用ください。

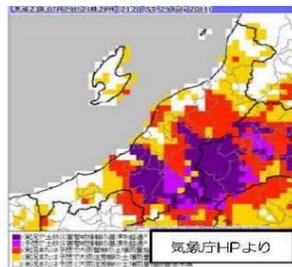
③大雨時や土砂災害警戒情報が発表された際には早めに非難する。夜間に大雨が予想される際は暗くなる前に避難する。

かけ下や溪流沿いなどにお住まいの方は、大雨の際や土砂災害警戒情報が発表された際には、早めに近くの避難所などの安全な場所に避難しましょう。また、夜間に大雨が予想される際には、暗くなる前に避難をすることがより安全です。お住まいの自治体の避難勧告などの情報に従い、早めの避難を心がけましょう。なお、豪雨などで避難所への避難が困難な際は、必ずしも安全ではありませんが、近くの頑丈な建物の二階以上に緊急避難したり、さらに困難な際は、家の中のがけから離れた部屋や二階などに避難しましょう。



土砂災害危険箇所

土砂災害警戒判定メッシュ情報



テレビ報道



出典：政府広報オンライン



避難

6月、「土砂災害防止月間」です。

裏面もご覧ください！

# 高校生のキャリア学習として、現場見学会を開催しました！

5月31日晴天の下、塩川床固工群の工事現場において、長野県 飯田OIDE長姫高等学校 社会基盤工学科1・2年生（各40名）を対象とした現場見学会を開催しました。見学会では、学校の卒業生である先輩技術者からの体験談や建設機械の操作体験、ドローンからの映像視聴体験等様々な現場の体験をしてもらいました。建設業の担い手不足が深刻化する中、この見学会を通し建設現場を身近に感じてもらうことで、この地域のインフラ整備の担い手として、そして災害時等にはこの地域の安全・安心を確保する守り手として、今後この地域で広く活躍する「未来の担い手」になって行ってくれるのではないのでしょうか。

## 《先輩による体験談》



今回の現場見学会の内容や工事の概要等について、天竜川上流河川事務所の担当者から説明を聞きました。

「建設業に携わるようになった動機」、「良かったこと」「大変だったこと」などいろいろな体験談を先輩技術者から話してもらいました。

## 《建設機械を使用した操作体験》



工事に使用する様々な建設機械の用途や必要な資格等について話を聞きました。

バックホウ、クレーン等の建設機械に乗車し、操作を体験することで、それぞれの機械の用途や役割を理解してもらいました。実際の機械の大きさや操作レバーの多さにびっくりする声もあがりました。

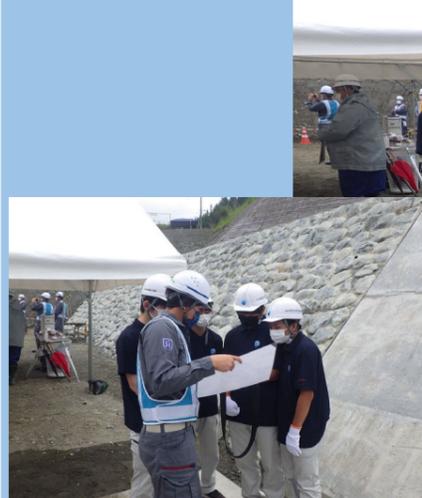
## 《ドローンとVRゴーグルを使用した映像視聴体験》



ドローンの操作装置に接続したVRゴーグルから、飛行中のドローンの映像を視聴してもらいました。VR（バーチャルリアリティ）については災害や土石流など、実際に体験することが難しい状況を疑似体験することができ、工事における安全対策に結びつけて行くことができます。



## 《ICT技術を活用した測量機器による測量体験》



ICT技術を活用した測量機器を使用し、測量を体験してもらいました。また、先輩技術者からの測量の技術や精度についての話も生徒達は興味深く聞いていました。

## 最後はみんなで記念撮影!!



《飯田OIDE長姫高等学校 社会基盤工学科1年生》



《飯田OIDE長姫高等学校 社会基盤工学科2年生》